

嗚呼主王や我に我が罪を見我が兄弟を議せざるを賜へよ。蓋爾は世
々に崇讚めらる「アミン」大拝一次
神や我罪人を浄め給へ十二次、毎次小拝
主吾が生命の云々

常に福

常に福にして全く玷なき生神女吾が神の母なる爾を福なりと稱ふる
は眞に當れりヘルウイムより尊くセラフイムに並びなく榮え貞操を
壞らずして神言を生みし實の生神女たる爾を崇讚む

と勿れ爾の聖神を我より取り上ぐること勿れ爾が救ひの喜を我に還し主宰たるの神を以て我を固め給へ我不法の者に爾の道を教へん不虔の者は爾に歸らんとす神や我が救ひの神や我を血より救ひ給へ然せば我が舌は爾の義を讃揚げん主や我が唇を啓けよ然せば我が口は爾の讚美を揚げんとす蓋爾は祭を欲せず欲すれば我之を獻らん爾は燔祭を喜ばず神に喜ばるゝの祭は痛悔の靈なり痛悔して謙遜なるの心は神や爾輕じ給はず主や爾の恵に因て恩をシオンに垂れイエルサリムの城垣を建て給へ其の時に爾義の祭献物と燔祭とを喜び饗けん其の時に人々爾の祭壇に贖を奠えんとす。

エフレムの祝文

主吾が生命の主宰や怠惰と愁悶と陵駕と空談の情を我に與ふる勿れ。
大拝一次

貞操と謙遜と忍耐と愛の情を我爾の僕（婢）に與へ給へ。
大拝一次

いに導みちびかず猶な我等われらを凶悪きようあくより救すくい給たまへ。蓋けだ國くにと權能けんのうと光榮こうえいは爾なんぢに世よに歸きす。「アミン」

第五十聖詠

神かみや爾なんぢの大おほいなる憐あはれみに因よりて我われを憐あはれみ爾なんぢが恵めぐみの多おほきに因よりて我われの不法ふほうを抹けし給たまへ屢しばしば々
我われを我わが不法ふほうより洗あらい我われを我わが罪つみより清きよめ給たまへ蓋けだ我わは我わが不法ふほうを知るし我われの罪つみは常つねに
我わが前まえに在あり我われは爾なんぢ獨ひと爾なんぢに罪つみを犯おかし悪あくを爾なんぢの目めの前まえに行おこなへり爾なんぢは爾なんぢの審断しんだんに義ぎにし
て爾なんぢの裁判さいばんに公おほなり夫それ我われは不法ふほうに於おいて妊はらまれ我わが母はは罪つみに於おいて我われを生うめり夫それ爾なんぢ
は心こころに眞實しんじつのあるを愛あいし我わが衷うちに於おいて智慧ちえを我われに顯あらはせり「イソプ」を以もつて我われに沃そそげよ
然しかせば我われ潔さぎよくならん我われを滌あらえよ然しかせば我われ雪ゆきより白しろくならん我われに喜よろこびと樂たのしみとを聞きかし
給たまへよ然しかせば爾なんぢに折おられし骨ほねは欣よろこばん爾なんぢの顔かんばんせを我わが罪つみより避さけ我わが盞ことごとくの不法ふほうを抹け
し給たまへ神かみや清いさぎよ潔きよき心こころを我われに造つくり正ただし直たましいき靈われを我うちの衷あらたに改たまめ給たまへ我われを爾なんぢの顔かんばんせより逐おうこ

認む一の洗禮以て罪の赦を得るを。我望む死者の復活並に來世の生命を。「アミン」

天の王

天の王慰むる者や眞實の神在らざる所なき者満たざる所なき者や萬全の寶藏なる者生命を賜ふの主や來て我等の中に居り我等を諸々の穢れより潔くせよ至善者や我等の靈を救い給へ

天主經

天に在す我等の父や願は爾の名は聖とせられ爾の國は來り爾の旨は天に行はるるが如く地にも行はれん我が日用の糧を今日我等に與へ給へ我等に債ある者を我等免すが如く我等の債を免し給へ我等を誘

信經

われしん ひとつ かみちちぜんのおしやてん
我信ず一の神父全能者天と地見ゆると見えざる萬物を造りし主を。
またしん ひとつ しゆ
又信ず一の主イエススハリストス神の獨生の子萬世の前に父より生
まれ光よりの光眞の神よりの眞の神生まれし者にて造られしに非ず
ちち いったい ばんぶつかれ つく われらひとびと ためまたわれら すくひ ため てん
父と一体にして萬物彼に造られ我等人々の為又我等の救の為に天
より降り聖神及び童貞女マリヤより身を藉り人と為り我等の為にポ
ンテイイピラトの時十字架に釘うたれ苦しみを受け葬られ第三日
に聖書に叶うて復活し天に升り父の右に坐し光榮を顕して生ける者
と死せし者を審判する為に還た來りその國終りなからんを。 又信ず
せいしんしゆいのち ほごー ものちち
聖神主生命を施す者父より出で父及び子と共に拝まれ讚められ預言
者を以て嘗て言いしを。 又信ず一の聖なる公なる使徒の教會を。 我